

来日してから今月で4年が経ち、私はようやく満4歳になりました。色々ありがたくて、神様にも、信者の皆さんにも、感謝しております。これからも頑張りたいと思います。さて、今日の福音を読みながら、来日してからおよそ1年間、日本語を勉強した時のことが頭によぎりました。高校時代に私が学校で学んだ外国語は、英語が第1外国語で、第2外国語は中国語でした。つまり、日本語とは縁がなかったということです。それから、時々、日本語との出会いの機会はありましたが、本格的には勉強したことも、勉強しようと思ったこともありませんでした。ですから、来日が決まった時、何か準備しなければならぬという心の焦りが大きくなり、韓国で3か月間、ある大学生から日本語を学びました。そして、来日してから、最初は個人レッスンで日本語を勉強し、2017年4月からはYMCAで勉強を続けました。生まれて初めて接した日本語は、今も同じですが、とても難しかったので、わたしの心の中では「できる。」と「いや、できない。」という葛藤の毎日でした。幸いに、まだまだ十分ではありませんが、日本語が話せるようになっていきます。それも神様が許してくださった結果だと思っています。確かに、神様はわたしに新しいタラントンを与えてくださり、これからはそのタラントンの何とかがやるようにと、私に求めておられる気がします。

今日の福音の例え話ですが、実は、読めば読むほど、いくつかの疑問が頭に浮かびます。まず、福音の内容は、ある家の主人が旅に出る前、3人の僕たちにそれぞれ5タラントン、2タラントン、1タラントンを預けることから始まります。その中で5タラントンを預かった僕と2タラントンを預かった僕は、商売をして100%の利益をおさめました。1タラントンを預かった僕はその金を土の中に埋めておきました。そして、かなりの日経って帰って来た主人は、其の3人の僕たちと清算を始めましたが、それぞれの利益をおさめた僕たちは主人に褒められ、また、もっと大きな仕事を任せられることになりました。しかし、1タラントンをそのまま返した僕は主人に怒られ、更に、その家での仕事まで失うことになったというのが、今日の例え話の全体的な内容です。では、なぜ、預けられたお金を忠実に守った僕だ

けが追い出されたのでしょうか。

ちょっと変な考えかもしれませんが、最初、主人はその3人の僕たちに自分の財産を預けましたが、それを用いてもっと多くのお金を儲けるようにとは指示しませんでした。つまり、それらは、ただ僕たちに預けただけのお金でした。そう考えたら、5タラントン、また、2タラントンを預かった僕たちは、勝て主人のお金を使ったことになるでしょう。幸いに、二人は成功しましたが、もしその投資が失敗していたら、主人は大きな財産を失ったに違いありません。それに比べたら、1タラントンを預かった僕は主人のお金を忠実に守って、主人に無事に返しました。彼は何も計らうことがなかったのですが、とにかく、その大事なお金を守ることが出来たでしょう。でも、主人は、先の二人に約束もしていなかった素晴らしい報いを与えましたが、その一人の賢明な僕からは、お金だけでなく、仕事まで奪いました。なぜでしょうか。

事実、この僕たちの主人は最初、自分の財産をそれぞれの力に応じて彼らに預けました。言い換えれば、主人は彼らの力を既に知っていたわけです。その力とは、彼らの能力とか才能ですが、主人は彼らが自らの力で、自分の財産をうまく管理できると思ったでしょう。それは主人の僕たちに向かう信頼で、僕たちもその信頼に応えて、主人の財産を扱うべきだったのです。つまり、主人からの明確な指示がなかったとしても、彼らはなんとかしてその主人の財産を使って、少しでも利益を収めるべきだったということです。それで、先の二人は多くのお金をもうけることができ、主人から誉められましたが、残念ながら、最後の一人は主人から退けられたのです。彼は主人が自分を信じていたことを疑い、更に、主人のやり方や人柄に対する考えも大きく間違えていました。彼が知っていた主人は、まるで、暴君、或いは、常識的ではない人で、自分が預かったお金についても強く責任を負わせるに違いないと思っていました。結局、彼は主人の信頼に背いて勝手に判断し、自分の怠惰だけを公にしてしまったのです。ということで、先の二人は主人と喜びを共にすることができましたが、この怠け者はすべてを

うしな 失ったまま、しゅじん いえ お だ 主人の家から追い出されたのです。

イエス様の今日の例え話は、**勿論**、**終末論**的な話で、**私**たちが**信仰**のある人として、どのように**過ごす**べきかを語っています。**私**たちは**神様**の**愛**によって**あがな**われて、**教会**の一員、つまり、**神様**の**子供**になって、**神様**からの**様々な恵み**をいただいて生きています。**神様**は**私**たちがその**恵み**をうまく**生か**して、**教会**の中では**勿論**、それぞれの**生活**の**現場**で、もっと**多く**の**実**を**結ぶ**ことを**望**んでおられます。つまり、**私**たちの**日々**の**結んだ実**によって、**私**たちは**神様**を**喜**ばせることができるということです。それは今日の**第1朗読**に語られている**賢明な妻**を持つ**夫**の**喜**びと同じことで、**私**はその**賢明な妻**とは**教会**を表すに違いないと思いますし、**教会**の一員である**私**たちが**教会**の**夫**である**イエス様**の**喜**びとならなければならぬとも思います。**イエス様**ご自身が**愛**の**十字架**によって**神様**の**喜**びとなられたように、**私**たちも**神様**からの**恵み**を**愛**の**力**によって**生か**さねばなりません。そうしないと、**私**たちは**土**の中で**眠**ってしまった**1タラント**のように、今日の**第2朗読**に書いてある**暗闇**に属している人のようになってしまはずです。その人たちは**イエス様**が**示**された**愛**の**生き方**や**愛**の**務め**ではなく、**世**の中の**生き方**に従いながら「大丈夫だ。無事だ。安全だ。」と思っています。しかし、**私**たちはそうやってはいけません。むしろ、**世**の中のあらゆる**状**況に**遭**遇しても、**絶**え間なく**祈**り、また、**神様**の**御**心**を**注意深く調べ、それに**従**って**働**く**愛**の**働**き手としての**使**命を果たすべきです。そうすれば、**神様**は**私**たちに**ふさわしい報**いを与えてくださるでしょう。

さて、**神様**に**嫌**がれる**罪**の中には「**時間**を**無駄**にする」という**罪**があるそうです。**神様**が与えてくださった**恵み**の中で**最**も**素**晴らしい**恵み**は**私**たちの**命**であると思います。その**命**を**生**きている間、**私**たちは**数**えきれないほどの**時間**を使っています。その**時間**を**無駄**にするのは**自**分の**命**を**無駄**にすることで、それは**大**変**大**きな**罪**に**当**たるでしょう。皆さんの**毎**日が、**神様**からの**恵み**を**活**かして、**立**派な**実**を**結**ぶ**日**々となる**こ**とができるように、**わ**たしもこの**ミ**サの**中**で**お**祈りいたします。